

新規事業採択時評価結果（平成27年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業の概要

事業名	地域高規格道路 会津縦貫南道路 一般国道121号 下郷田島バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	福島県
起終点	自：福島県南会津郡下郷町大字塩生 至：福島県南会津郡南会津町田島	延長	11.1km		
事業概要	会津縦貫南道路は、会津縦貫北道路や栃木西部・会津南道路と共に県土の骨格をなす6本の基幹的な道路の1つである会津軸として、地域間連携に資する約50kmの地域高規格道路である。				
事業の目的、必要性	下郷田島バイパスは、現道の落石崩壊危険箇所を回避し安全で円滑な交通を確保すると共に、第3次医療施設が無い救急医療の空白地帯を高速交通体系で支援することで、豊かな自然や文化を活かした安全で安心できる地域づくりと、交流圏の拡大による産業振興に寄与することを目的とした事業である。				
全体事業費	約215億円	計画交通量	約8,700台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
会津縦貫南道路整備促進期成同盟会や国道121号改良促進期成同盟会、会津総合開発協議会など多数の団体から毎年多数の強い要望がある。また、本事業に期待する地元熱意は高く、下郷町、南会津町をはじめ沿線会津地方自治体の協力体制が確立している。

学識経験者等の第三者委員会の意見
福島県県公共事業評価委員会において、事業実施は妥当と認められている。

事業採択の前提条件
■費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：178億円 （事業費：161億円 維持管理費：17億円）	総便益：249億円 （走行時間短縮便益：196億円 走行経費減少便益：37億円 交通事故減少便益：16億円）	基準年：平成26年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.6（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C=1.3（事業費変動 +10%）	B/C=1.5（事業費変動 -10%）		
	事業期間変動	B/C=1.3（事業期間変動+20%）	B/C=1.5（事業期間変動-20%）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない		
		事故対策	○	死傷事故率の高い3箇所を含む区間の事故の減少が見込まれる。 死傷事故率の高い区間（100件/億台キロ以上） 【現況】 3箇所（最大311.2件/億台キロ）		
		歩行空間	-	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	第3次医療施設への速達性向上 南会津地域における第3次医療施設（会津中央病院）60分圏域の人口（カバー率） 【現況】 約21% → 【整備後】 51%（9,000人増）		
		地域経済	○	県内有数の観光地である大内宿への関東方面からのアクセス時間を短縮し、来訪者の負担・不安が軽減され、観光客増加による地域活性化が期待 【関東方面より】日光～大内宿 【現況】132分→【整備後】124分（8分短縮）		
		災害	◎	特殊通行規制区間や線形不良区間を回避し、南会津地域からの緊急輸送路が確保される。 現道通行止め時に広域交通が県道高野田島線へ迂回する必要がなくなり、通行止め時の地域住民の生活環境が改善されるとともに、県道迂回時の速度低下が解消される。		
環境		-	注目すべき影響はない。			
地域社会	○	会津縦貫南道路の整備により時間短縮が図られ、生活圏内（南会津町～会津若松市）の円滑な連携が強化 南会津町～会津若松市 【現況】87分→【整備後】75分（12分短縮）				
事業実施環境	○	整備に対する要望が強い。				

採択の理由

事業主体である福島県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、特殊通行規制区間の回避による災害時の安全性・信頼性の向上、第3次医療施設への速達性の確保、高速ネットワークの形成により地域間交流・連携の促進に寄与する等、当該事業の必要性・社会全体の効果は高いと判断される。
以上より、本事業は平成27年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。